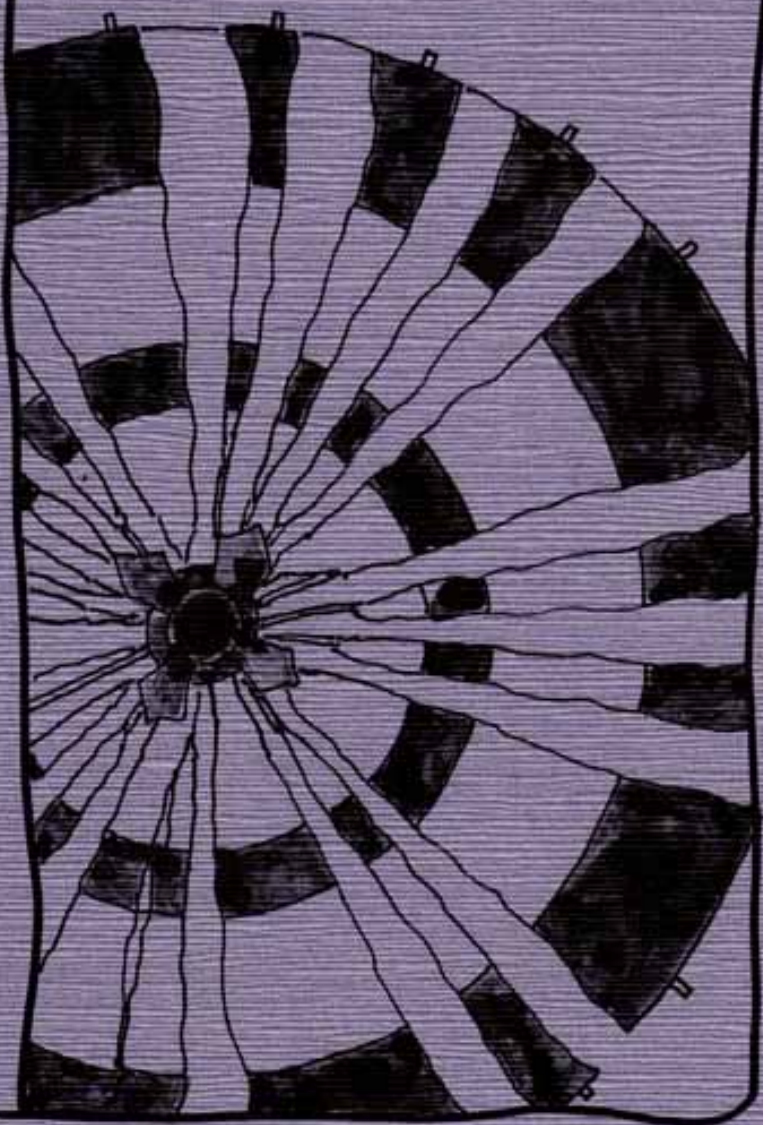


# やぶれ傘



一一一〇号  
二〇二二年六月

にはとりのほつつき歩く柿の花 根橋宏次  
 青梅をついでのやうに蹴つてゐる きくちきみえ  
 シーソーに雀が止まる暮の春 大島英昭  
 時計屋がルーペをはづしゐる立夏 丑久保 勲  
 ひさびさに街に出てみる薄暑かな 廣瀬雅男  
 鶴首に今日咲きさうな椿活け 瀬島酒望  
 藻の花の上越す水をみてゐたる 青谷小枝  
 若楓空き家の庭に椅子がある 藤井美晴  
 教会の前で爆竹復活祭 天野美登里  
 麦秋の畑の道に車椅子 白石正躬  
 ボタン押せば車列が停まる春の昼 渡邊孝彦  
 ざつくりとコロツケ揚がる花大根 有賀昌子  
 夏の雨今日はパズルがよく解ける 小山よる  
 午後二時の下校の報せ豆の花 秋山信行  
 一堂に会する牡丹しづかなる 安藤久美子

## 抄 集 句 傘 紀 大 崎 夫 選

花の名を思ひ出しつつ春の道 松村光典  
 路線バスを追ひかけて行く花吹雪 山本久枝  
 ふた畝のふくふくとして葱坊主 吉田幸恵  
 産院前ピンクのばらと父と子と 岩藤礼子  
 春昼のカッコウ時計三度鳴る 江口恵子  
 鍵かけてなにかためらふ花曇り 亀岡睦子  
 白藤の花房肩にとどくほど 木村瑞枝  
 夕薄暑角の取れたる診察券 倉澤節子  
 春の雨柿の木坂を下りゆけば 小巻若菜  
 花と葉が入れ替はる頃水温し 坂本和穂  
 春の街軽きリュックは草木染 柴崎和男  
 菜の花に駆けゆく子等に駆けてゆく 貫井照子  
 ゆつくりと風車の回はる麦の秋 野口希代志  
 車椅子花盗人を連れかへる 日高みち子  
 飛んで行くしやぼん玉には空がある 武藤節子

揚羽蝶

大崎紀夫

鳥帰る日の風向きとなりにけり  
仰向けに亀が寝てゐる四月馬鹿  
川岸のぬた場のにほひ柳絮飛ぶ  
足組んで足首まはしゐる日永  
製材所裏の蛙のにぎやかな

新宿は薄暑からすが鳴いてゐる  
ひとつだけたんぽぽの絮まんまるく  
鉄塔と煙突かすみゐる日暮れ  
団子虫日傘しづかに通りけり  
鉄柱の塗装が剥げてゐる薄暑  
初夏の揚げ舟すき間なく並び  
橋下のくらがりを出る揚羽蝶

柿の花

根橋宏次

表札に船の名夏に入りにつけり  
 石段を雨の流れて著莪の花  
 さらに数増えてじやがたらいもの花  
 畑から新玉葱を貰ひけり  
 流れつつ乾いてゐたる竹落葉  
 にはとりのほつつき歩く柿の花  
 歩きつつ思ひ出す道えごの花  
 釣れさうな渦まく流れ桝の花  
 とんとんと至つて元気鳥の子  
 まはりつつ流るる草の屑薄暑

青梅

きくちきみえ

逆上がりして正面の山桜  
 春雨に光つて象の滑り台  
 蛤のもうじきくちを開ける音  
 たんぽぽの絮の膨らんでゐる間  
 貝殻の出てくる空き地夏に入る  
 初夏のジーンパン回る洗濯機  
 工場の跡地より出ず夏の蝶  
 夏蝶をときに押しやる午後の風  
 青梅をついでのやうに蹴つてゐる  
 天井に伸ばせば届く蠅叩き

からす麦

大島英昭

学校の前の駄菓子屋四月くる  
事務室へ赤き矢印春休み  
シーソーに雀が止まる暮の春  
川波の高き日やたらつばくらめ  
不揃ひに四五台駐車竹の秋  
舗装路に泥のかたまり暮の春  
一匹のめまとひ橋を渡つても  
思ひきり吹かれつ放しからす麦  
尾長鳴くこゑひとしきりからす麦  
傘を差すまもなく止んでクレマチス

郭公

丑久保勲

さざ波のやうに吹かるる花の塵  
花曇りミラーに映る後続車  
原稿に文鎮を置き桜餅  
四月馬鹿の日なりスマホが突如鳴り  
長谷寺の牡丹は磴を上る毎  
時計屋がルーペをはづしゐる立夏  
地球儀に叩きをかける若葉風  
草餅は粒か漉しかと問はれけり  
花サツキ戸を開け放つラーメン屋  
郭公のこゑイタリアンレストラン

薄 暑

廣瀬雅男

桜草咲き縁側に猫眠る  
支へ木にゑんどうの花盛りなり  
ランドセル降ろしブランコ漕ぐ子かな  
丘陵は古墳の跡や薊咲く  
藤棚の下に寄り来る乳母車  
ひさびさに街に出てみる薄暑かな  
茄子植ゑて菜園らしくなりにけり  
おおばこの花踏みつけてボール蹴る  
畦道はここでおしまひ花茨  
卯の花や峠の先に光る海

椿

瀬島洒望

豚の声鶏の声してあたたかし  
菜の花の蝶に化すまであとすこし  
何軒か飛び地に家が雪柳  
落椿舟形石に水溜まり  
鶴首に今日咲きさうな椿活け  
花祭り大黒さんと立ち話  
靴跡は董をよけたらしき位置  
山荘に聴く鶯の谷渡り  
寺まではかたかごの咲く坂道を  
電波塔彼方に見ゆる葦若葉

藻の花

青谷小枝

三月尽捨つるつもり  
の皿小鉢  
低額の切手べたべた  
蕨来る  
たんぽぽのわたのふはりと  
今日も晴れ  
山桜丸太一本置き  
て椅子  
じんわりと焦げて  
餡入り蓬餅  
幾つ目のスペアキー  
だか万愚節  
風見鶏くるくる  
薔薇はくづれだし  
シート干し麦茶  
煮立ててゐたりけり  
藻め花の上越す水  
をみてゐたる  
海見えてトマト  
サラダにぱらと塩

えごの花

藤井美晴

ぶらついたついでに  
目刺し買つていく  
傘さして庭の三葉  
をちよつと摘む  
花の雲二輛仕立て  
の気動車来  
窯変の素焼きの壺  
に花茨  
月見えて木香薔薇  
のにほふ午後  
春深む雨降る  
昼の鳩のこゑ  
樟若葉今日交番  
に人がゐる  
若楓空き家の庭  
に椅子がある  
苔の上の夏の落葉  
をそつと掻く  
えごの花すぐに  
降り出しさうな空

復活祭

天野美登里

石庭を鳥の歩く利休梅  
坂の上の畑へポンポンドリア植う  
万華鏡回す蛙の目借時  
長崎の凧揚げを終へにぎり飯  
教会の前で爆竹復活祭  
秒針の音のひびける万愚節  
ひと時の雨上りたる猫目草  
宿坊へ百段のぼり木の芽和  
山桜水飲むに座す力石  
ビル街は昼潮風と初つばめ

麦秋

白石正躬

もこもこの畑土踏んで葱を抜き  
日の暮の川風が来る花大根  
砂利山の上に菜の花盛りある  
図書館の窓に触れある糸桜  
菜の花を抜きそこいらに積み上げる  
鳥曇り山火事あとの坂登る  
渡船場に空のバスある揚雲雀  
土手すそのところどころの犬ふぐり  
置鉤の舟帰りくる夏の朝  
麦秋の畑の道に車椅子

春の昼

渡邊孝彦

ボタン押せば車列が停まる春の昼  
切株に番号打たれ囃れり  
春の暮市バスがずらり並ぶ車庫  
用水の風が来てゐる葱坊主  
うぐひすのこゑが日暮れの木立より  
とりどりの牡丹と共に雨の中  
この先にコンテナ埠頭樟若葉  
門灯にぼやつと垣の花うばら  
葉桜に店開け放す自転車屋  
掲示板の祭事日程紫蘭咲く

花大根

有賀昌子

遠ざくから綿菓子に紅薄くあり  
春泥やはなたれ小僧見なくなり  
おぼろ夜の心とろんと溶けてゆく  
更衣一刷きほどの昼の月  
哲学の道の小流れ亀が鳴く  
鳥帰り水面に映るちぎれ雲  
校庭に一本だけの桜咲く  
子の歩幅と合せて行けり春日傘  
囃りやパラパラ零すクロワッサン  
ざつくりとコロツケ揚がる花大根



夏の雨

小山よる

春の陽のやたらと当たる席でお茶  
蒸し上がるお団子に艶春深し  
夏隣品川で人どつと降り  
本を読む手提げの中に桜餅  
初夏の陽とトンカチを叩く音  
瑠璃色の壺が窓辺に走り梅雨  
夏の雨今日はパズルがよく解ける  
卵の花腐し路面に写るビルの窓  
シュークリームのクリームを吸ふ清和かな  
夏の灯に湿布剥がせば皮膚は伸び

豆の花

秋山信行

山寺の渡り廊下に散る桜  
午後二時の下校の報せ豆の花  
白壁に河津桜の揺らぎぬる  
オーダーは紅茶と決める春時雨  
空き瓶に菜花さしある台所  
菜の花の辺りで曲がる用水路  
農協の梁の太さよ初燕  
名を知るも知らぬも畑の草むしる  
夕焼けやメタセコイヤの影の濃く  
順繰りの当番きたる夏祭り

春うらら本広げあるホームレス  
銀杏萌ゆ東の方へ雲うつり  
花は葉に並木通りを自転車で  
花の名を思ひ出しつつ春の道  
晴れ晴れと野菜畑にチューリップ  
新緑の風の中ゆくランニング  
片隅に明るく盛る君子蘭  
新緑の銀杏並木をのんびりと  
道沿ひの躑躅をながめバスの旅  
初夏の空に富士山雲白く

花は葉に

松村光典

卓上にサングラス置き出かけたる  
ソーダ水無言のままに向き合つて  
垣間見る睡蓮の花ふたつみつ  
飴色の梅酒いつからこの場所に  
どくだみの花打つ雨や午後暗し  
一堂に会する牡丹しづかなる  
ガレ調の花瓶一輪青き薔薇  
黒文字を添へてどうぞと水羊羹  
桜の実失せ物出づの御簀引く  
石橋の左右をゆらり錦鯉

ソーダ水

安藤久美子

## ◇7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島 英昭
	7日(水)	PM6:00	ぎんなん会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	24日(土)	AM10:00	楽 天 会	あいバル	廣瀬 雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	2日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン5	丑久保 勲
	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島 英昭
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	浦和コミセン3	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	28日(土)	AM10:00	楽 天 会	あいバル	廣瀬 雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

NHK大崎教室 8月は休講です。(オリンピックのため)

8月15日(日)の吟行。集合10時。

集合場所 JR京浜東北線・北浦和駅。

吟行地 さいたま市・見沼。

句会場 浦和コミセン・第3集会室。

◎連絡先

秋山 信行	☎ 048-874-0555	藤井 美晴	☎ 0422-55-2733
大島 英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬 雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856